

インド

ヒラクト水力発電事業



ヒラクトダムと発電所

〔 借款概要 〕

承諾額/実行額	1,500百万円 / 1,500百万円
借款契約調印	1981年10月
借款契約条件	金利2.75%、返済30年（据置10年）
貸付完了	1997年1月

〔 事業概要 〕

インド東部オリッサ州の電力不足に対処するため、37.5MWの発電容量を持つ水力発電施設を、既存のヒラクトダムの水力発電所（発電容量270MW）に増設するもの。

〔 評価結果 〕

本発電所の既存施設と本事業による増設分を合わせた計画発電量は約75GWh / 年であったが、完成後の平均発電量(1990年～99年)は204GWh / 年と、計画を大幅に上回る実績となっている。

本事業は、貯水量が豊富な雨期の稼動を主に想定していたが、導入された設備の信頼性が既存設備に比べて高かったため、乾期にも継続して運用されたことによる。

1999年末にタービンが故障し一時的に計画値を下回る発電量となったが、その後適切な修理が行われ、好調な操業を続けている。

本発電所の経営面に関しては、完成時には水力発電・送配電の両部門をオリッサ州電力公社（OSEB）が担当していたが、1996年4月、州政府の電力部門改革により、水力発電部門は民間のオリッサ水力発電会社（OHPC）、送配電部門はオリッサ送配電会社（GRIDCO）に分割継承された。

現時点において、発電公社は健全経営が達成されているが、送配電公社については料金徴収の強化等、今後の経営改善が課題とされている。